

第9回「日本語大賞」

テーマ「ちょっと気になる日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

私は一人じゃない

神奈川県
湘南ゼミナール 東戸塚教室
小学5年 河野 風花

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

よく詩などで「一人じゃないよ」という言葉を目にする。その言葉のひびきと、温かさが私は好きだ。考えてみると、「一人」とはどういう意味だろう。

同じ部屋に、二人や三人でいたら、確かに一人ではない。留守番などで一人の時は、だろう。家族の写真や、思い出のある人形、父や母のぬくもりがあるかもしれない。だから、一人ではない、と言うのだろうか。「ひとり」には、意味がある。「一人」は、人の数が一つであること。「独り」はどうだろうか。辞典で調べてみると、自分だけという意味だ。

ある日、「はじめてのおつかい」というテレビ番組を見た。三才の子は、それまでに何度もおつかいに行きたいと言っていたそう。でも実際に行くとなったら、こわくなったのだろう。お母さんに抱きついて泣いていた。でもお母さんは頭をなでながら言った。「一人じゃないよ。」と。すると、その子は泣きやみ、元気に歩いていったのだ。「大丈夫。大丈夫。」と小声で唱えながら。私は突然の展開におどろいた。そして、きちんと買物をして、笑顔で戻って来た子を見て、お母さんの方が泣きそうだった。「一人じゃない」は、誰でも安心できる言葉なのだ。

私も学校でいやな事があった時、家に帰って母にその事を話した事がある。すると、母は「一人じゃないよ。大丈夫。」と言いながら、抱きしめてくれた。私は、独りぼっちではないことに気付き、その温かい言葉に包まれて、落ち着いた。

辛い時でも、自分で「大丈夫。一人じゃない」と、思えば父や母が隣でささやいてくれるように感じる。分かってくれる人、応援してくれる人がいると思うと、頑張れるかもしれない。

何か嬉しい事があった時も、きっとあの人も一緒に喜んでくれる、と心にみんなの笑顔を浮かべると嬉しさも倍増する。

私の周りには、家族がいて、友達がいて、先生がいて。一人で頑張らなくてはいけない時もあるけれど、それは独りぼっちではないのだ。もし誰かが辛い思いをしていたら、この「一人じゃないよ」という素敵な言葉を教えてあげたい。